

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	小城市立牛津小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・国語科を中心に話し合い活動を位置づけ、特に課題設定に重点を置いて研究を進めた結果、「読むこと」の領域に関してほとんどの学年でおおむね達成の基準を超えることができた。「書くこと」「読むこと」と関連づけながら、表現力・思考力を高めていく必要がある。 ・人権教育の充実と個別の教育相談の定期的実施、委員会活動の工夫を行い、個々に寄り添いながら児童の自己肯定感を高められた結果、問題行動等も少なかったと考えられる。さらに道徳の授業の工夫や縦割り班活動を充実させていき、子どもたちの主体的学びにつなげていきたい。		
2 学校教育目標	心豊かに進んで取り組み、津保美つ子の笑顔が輝く学校 ～学校・家庭・地域の豊かなつながりを通して～		
3 本年度の重点目標	①つぼみタイム(話し合い活動)のあり方を中心に校内研究を深め、思考力・判断力・表現力を育む授業づくりを推進し、学力向上を図る。 ②子ども一人一人の自尊感情を高める授業や活動の工夫を行い、豊かな心を育てる。		

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○基礎基本の定着と活用力の向上	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○県学習状況調査等で、すべての領域において「おおむね達成」する。 ○国語の学習アンケートで「学習した内容をふだんの生活の中で、話したり書いたりすることに生かしている」と回答した児童85%以上。	・教室以外でも学習環境を整え、季節を表す言葉や自然に学習できる環境を作り、身近に触れさせる。 ・校内研究、授業参観推進月間、日々の情報交換等のチーム力によって、個々の指導力を高める。 ・国語科の「読み取る力の系統表」を作成し、学年で身につけなければならない事項や力を確認し、指導に生かす。 ・学年グループで指導案作成を行い、授業実践をする。 ・指導過程に「つぼみタイム」を位置づけ、話し合い活動を活性化させ、授業理解を深めさせる。		
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「考え、議論する」道徳授業の実践。 ○月1回の人権教室の実施と充実。 ○学校生活を肯定的にとらえている児童80%以上。 ○いじめを見逃さないという意識の涵養。	・学校全体で、計画的・継続的に児童の心に届く人権教育や道徳に取り組む。 ・いじめ・心を考える日(毎月10日)と連携させた「月の心」アンケートを実施し、いじめの早期発見につなげる。 ・積極的な覚知、認知に全職員で取り組み、スピード感のある指導・対応を行う。 ・児童連絡協議会を毎月開催し、児童理解や対応の共通理解を図り、組織で対応する。						
	○児童の主体的活動の充実と自尊感情を高める教育活動	○集会活動や委員会活動等では、毎回児童の主体的活動の場を設定する。	・児童の自主性や意欲を尊重した学校行事、児童会活動、学級活動を充実させる。(地域や社会に貢献できる児童) ・自尊感情を高めるための教室環境、校内掲示の工夫をする。						
	●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●1週間の総運動時間を「0分」と回答する児童を全国平均(男子3.6%、女子4.7%)程度とする。 ○自分の体や健康に関心をもつ態度を育てる。	・クラスごとに「スポーツチャレンジ」の目標を定め、運動に取り組ませる。 ・全校で「なわとび期間(3学期)」を設定する。 ・「給食週間」「ふるさと食の日」の実施を通して、食の大切さを周知する。 ・コロナ感染防止対策や衛生検査等の取り組みを意欲的なものとする。					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○コミュニケーションや同僚性を大切に、働きやすい活気のあるチーム牛津小(職場)にする。	●慣習にとらわれず、業務のやり方などを工夫し、超過勤務時間を、昨年度より削減する。 ○各担任の学級・教科経営をサポートするメンターの学校組織を営み、負担を和らげる。	・定時退勤日の設定 ・校内働き方改善委員会で、働き方改善のアイデアを出し合い、適宜取り組みを生かす。						

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○特別支援教育	○特別支援教育の充実 ※特別支援学級9学級(知的2、情緒5、病弱1、肢体1)	○特別支援に関する研修会を年間3回以上実施する。 ○特別支援教育に関する保護者への周知の場を年間、2回以上設定する。	・月1回児童連絡協議会を開き情報を共有する。 ・困り感のある児童や学校への不適応状況が見られる児童のケース会議を行い、市児童センター等に相談し支援方法を学ぶ。 ・PTA総会や新入生保護者説明会で特別支援教育に関する考え方や学校の取組の現状を話し、理解を求める。		
◎志を高める教育	○美しい学校づくり	○美しい環境を作ることにより、児童一人一人が自らの存在意識を感じ、共に助け合い協力し合う心や態度を培う。 ○生活アンケート等で「美しい学校づくり」に取り組んでよかったと回答した児童が、80%以上。	・「牛津小フワフワ通り」酒いのある学校にしよう等をテーマに、美しい学校づくりに取り組む。 ・児童によるボランティア活動、社会支援活動等、社会へ貢献できる取組を企画する。						

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------